

テニス競技のデータを幅広く収集・分析し選手の育成に生かす

専門分野 ゲーム分析、パフォーマンス尺度の検討、テニス(実技)

担当科目 球技パフォーマンス分析論特論など

本学男子テニス部とユニバーシアード男子代表チームのコーチを務めながら、研究室ではテニス競技のゲーム分析やコーチングについて研究しています。研究の手法としては、選手のパフォーマンスを動画で撮影し、それを専用ソフトでデータ化して分析することを主としています。ゲームの勝敗は、選手自身のパフォーマンスだけで決まるものではありません。対戦相手や環境など、そこに影響を及ぼす条件は数えきれないほどあります。科学に基づいた適切な指導を行うためには、さまざまな状況下から膨大なデータを収集し、それを横断的・縦断的に検証する必要があります。常に「現場に貢献できることは何か」を問いながら、データの収集・分析と研究に取り組んでいます。

選手の中には、競技における技術や戦術を、感覚的に理解している人も多いと思います。しかし、もしも将来指導者になるとしたら、それを言葉にして競技者に伝えなければなりません。ゲーム分析はそれを可能にするツールでもあります。選手としての経験や体得した技術を論理的に整理できる点、それを次世代に伝える手段を得られる点が、この研究の魅力であると考えています。競技経験を指導に生かしたいと思う方や、技術や戦術を分かりやすく説明したいと思う方に、ぜひ学んでいただきたいです。

キーワード

■テニス

プロテニスプレイヤーとして活躍した経験や、指導者としての経験を生かして、研究・指導を行っている。

■パフォーマンス分析

練習メニューを導入した集団、していない集団のパフォーマンスを比較し、その効果を確かめる実験なども実施。

■ゲーム分析

選手自身や相手選手のパフォーマンスを分析し、勝敗の原因を科学的に解明することをめざす。

■コーチング

選手の中には、ゲーム分析に積極的な者も消極的な者もいる。選手に合わせて指導方法を変える姿勢は必須。

宮地 弘太郎 教授

略歴

日本体育大学大学院博士前期課程トレーニング科学系 修士課程(体育学)修了。大阪体育大学テニス部男子監督を務める。ナショナルチームユニバーシアード男子チーム監督・日本オリンピック委員会テクニカルスタッフを務める(2007年~2013年)。ナショナルチームユニバーシアード男子ヘッドコーチを務める(2013年~現在)。

研究論文・実践報告

テニス競技のナショナルジュニアに求められる体力評価の検討(宮地弘太郎ほか)テニスの科学第22号P23-P32 2014年3月
ユニバーシアード競技大会(2017・台北)における日本女子テニスチームの混合ダブルス金メダル獲得までの強化活動事例(宮地弘太郎ほか)テニスの科学第26巻2017年3月
映像を用いた累積的フィードバックがテニスのパフォーマンスに与える効果(宮地弘太郎ほか)大阪体育大学研究紀要第45巻 P55-P78 2015年3月